

小曽根 真 Solo & Duo

MAKOTO OZONE ソロ & デュオ

曲目／ガーシュウィン：ラプソディ・イン・ブルー（2台ピアノ版） ほか
（予定）

これまでソロ公演を始め、いろいろな共演者を迎えて会場を沸かせてきた小曽根真。今回はピアノソロに加えて、若き実力派ピアニスト壺阪健登を迎えて熱いステージを繰り広げる！二人のケミストリーから生み出される貴重なライブにご期待ください！

Guest
ピアノ
壺阪 健登

ピアノ
小曽根 真

2027 2.20 土 15時開演（14時15分開場）
盛岡市民文化ホール 大ホール

盛岡市盛岡駅西通 2-9-1 マリオス 1F <https://www.mfca.jp/shiminbunka/>

前売料金
〈全席指定〉

S席：5,500円 A席：4,500円
U-25チケット（S・A席選択可）：2,250円（当日各500円増）

m-Friends 料金
〈全席指定〉

S席：4,950円 A席：4,050円
前売のみ／スタンダード会員2枚まで、ライト会員1枚まで
U-25チケットは対象外

●チケット発売 m-Friends先行販売 ▶ 2026年9月10日（木）～16日（水）
一般販売 ▶ 2026年9月17日（木）

●プレイガイド イープラス、フェザン、なはんプラザ、江釣子SCバル、盛岡市民文化ホール、盛岡劇場、キャラホール、姫神ホール、盛岡市文化振興事業団インターネットチケットサービス

●主催：盛岡市文化振興事業団 ●共催：盛岡市、岩手日報社 ●後援：IBC岩手放送
●助成：令和8年度 文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業
●お問い合わせ 盛岡市民文化ホール Tel.019-621-5100

※m-Friendsチケット及びU-25チケットは盛岡市民文化ホール、盛岡劇場、キャラホール、姫神ホール、盛岡市文化振興事業団インターネットチケットサービスでのお取り扱いとなります。

※U-25チケットは公演日時時点で25歳以下の方が対象となります。購入時及び公演当日に年齢の分かる身分証をご持参ください。なお、対象外の方が利用された場合は、前売料金との差額を当日いただきます。

※盛岡市民文化ホール、盛岡劇場、キャラホール、姫神ホール、盛岡市文化振興事業団インターネットチケットサービスでは、同じ残席状況からご購入いただけます。

※車イス席のチケットは、盛岡市民文化ホールのみでの取り扱いとなります。（全6席／前売料金5,500円、m-Friends割引対象）

※未就学児はご入場いただけません。

盛岡市文化振興事業団
インターネットチケットサービス
（登録無料）<https://p-ticket.jp/mfca/terms>
スマホで登録する方はこちらから→



© 廣田達也 / 西村満



令和8年度 文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業
18歳以下無料招待 ◆対象年齢：18歳以下（2008年4月2日以降に生まれた方）◆数量限定（要申込・先着順）

盛岡市文化振興事業団インターネットチケットサービス、盛岡市民文化ホール、盛岡劇場、キャラホール、姫神ホールにて9月17日（木）より受付。詳細、お申込方法は盛岡市民文化ホールHPをご確認ください。



Makoto Ozone Solo & Duo Kento Tsubosaka



小曽根 真 (ピアノ) Makoto Ozone, piano

ジャズ、クラシックの垣根を超えた独自のアプローチで世界的に活躍するピアニスト、作曲家。パークリー音楽大学卒業後、ゲイリー・パートンとの共演からジャズ界での国際的なキャリアをスタート。

チック・コリアやブランフォード・マルサリス、マイケル・ブレッカーなどの名だたるアーティストと共に活動し、ジャズシーンにおける確固たる地位を築く。その後、クラシックの分野でも、ニューヨークフィル、ベルリン放響など、世界の名門オーケストラと共演。

2022年からスタートした「From Ozone till Dawn」では、新世代アーティストの発掘・支援を行い、現在、そこで育成したミュージシャンと共に組むトリオ「TRiNFiNiTY」と国内外で活動。また、20年目となるビッグバンド「No Name Horses」での全国ツアー、メルボルン、モントルーなどの世界的なジャズフェスや、ラヴィニア音楽祭、ショパン祭などクラシックの祭典への参加が続く。

楽曲の原型の美しさへのリスペクトと、自身の鮮烈なパッションを両立させる新しい表現者として、今後も世界的な躍進を続ける。ニューヨーク在住。

© YOSUKE SUZUKI

壺阪 健登 (ピアノ) Kento Tsubosaka, piano

1994年神奈川県横浜市出身。慶應義塾大学を経てパークリー音楽院を首席で卒業。

演奏家としてのみならず、作曲、編曲家としても多くのアーティストとのコラボレーションを重ねる。2022年、小曽根真が主宰するプロジェクト「From OZONE till Dawn」に参加。2024年にソロ・ピアニストとしてのデビュー・アルバム「When I Sing」を26年2月にはトリオ「Lines」をユニバーサル・ミュージックよりリリース。2024年以降は「ラブソディ・イン・ブルー」を東京フィル、東京シティフィル、神奈川フィルなどと共演等、ソロ・ピアニストとして本格始動。海外でも2023年7月にはスペインのサン・セバスティアン国際ジャズフェスティバルに、また、2025年にはフランスのナントと東京で開催されたラ・フォル・ジュルネに招待されるなど活躍の場を広げる。石川紅奈とのユニット「soraya」ではFUJI ROCK FESTIVAL '24に出演。現在、小曽根真とのデュオや、トランペットの松井秀太郎とタッグを組んだツアーを重ね、新世代ジャズを体現するアーティストとして注目を集めている。



© 廣田達也

「One Man Orchestra」と呼ばれるピアノ。他の楽器での「全編ソロ」というコンサートはとても稀だけれど、ピアノソロ・コンサートという文字を目にすることは(特にクラシックの世界では)珍しくない。それだけ一人でも「完成」された音楽を奏でることができる楽器だけれど、これが二人同時に演奏するとなると他の楽器にはありえない課題が生まれる。クラシック音楽のように素晴らしいコンポーザー達が2台のピアノを使ってのハーモニーや音量を考慮して書き上げた楽譜があっても二人同時に一つの音楽を演奏するのは苦労するのに、ジャズはそのバランスのとれた響きを即興で創らなくてはならないわけだから、そこではピアニストとしての技術よりもむしろ作曲家としての実力を問われることになる。具体的に説明するならば、次々と目の前で生まれてくる音楽を瞬時に聞き取って二人で一つの響きを創り、更にその音から相方の気持ちや想いまで感じ取っ



て次の音を想像しながら物語を紡いでいく。こんな風には書くと相対大変なことをやっているように聞こえるが、実はこれが素晴らしいパートナーにさえ出会えば最高に至福の時間となる。

One Man Orchestra

僕にとって壺阪健登という音楽家はその一人。彼の持つ音楽を「聴く」力がずば抜けて素晴らしい事は当然ながら、彼の指先から次から次へと即興で紡ぎ出される物語の深さとその美しさに、もっと色んな事を表現したいとこちらが触発される。この会話を生でご覧になったら、きっと会場の皆さんも僕らと同じ「至福」を感じて頂けるだろう。この二つの魂が音楽を通して一つになって皆さんと生きている喜びを分かち合う時間が待ち遠しい。

小曽根 真